



福祉人材ニュースレターの発行にあたって

本県は、他県に先行して少子高齢化、人口減少が進行しており、高齢化率では全国第2位、団塊世代が後期高齢者(75歳)となる2025年には介護分野では要介護、要支援者を支える人材が更に必要となり、福祉人材の確保・定着が大きな課題となっています。

福祉・介護は、3K(きつい、きたない、きけん)の職場というマイナスイメージがありますが、実際の福祉現場の今は、介護助手、ノーリフティングケアの推進、ICTの導入など業務の効率化に取り組んでいる施設・事業所が、たくさんあります。

そういった中、福祉人材の確保及び定着に取り組んでいる施設・事業所の先進的な事例を紹介し情報発信することで、福祉職場のイメージアップにつなげるとともに関係機関と連携して、福祉の仕事の魅力を発信していきます。



社会福祉法人
高知県社会福祉協議会
高知県福祉人材センター
所長 小川 英治

高知県福祉人材センターは・・・

「社会福祉法人高知県社会福祉協議会」が運営する無料職業紹介事業所です。
福祉の仕事に就くことを希望されている方に対して、資格取得や就職活動等の相談また面談会の実施、そして職業安定法に基づき厚生労働大臣許可を得て、福祉の仕事の紹介・あっ旋を行っています。
【無料職業紹介事業許可番号 39-4-010003】

高知県福祉人材センターからのお知らせ

- ### 01 雇用関係助成金制度について

厚生労働省が取り扱っている人材の雇用に関係する助成金は、当センターからのご紹介で雇用になった場合もご利用いただけます。

02 求人のご提出について

当センターへの求人登録はインターネットでお受けしております。まずは、事業所マイページのご登録をお願いします。

事業所マイページ登録

福祉のお仕事

福祉のお仕事にアクセスして「求人事業所の方」を押します。

www.fukushi-work.jp

ご利用案内を確認して事業所マイページを作成する方は「新規登録」を押します。

新規登録

事業所登録からマッチングまで

- 1 **事業所マイページ登録を申請**
 人材センターより承認メールが届きます。 登録
- 2 **求人票の入力・申請**
 人材センターより承認メールが届きます。
- 3 **マッチング**
 人材センターからの条件に合った求職者の紹介、応募の連絡をします。
- 4 **施設・事業所で選考**
- 5 **採否通知**

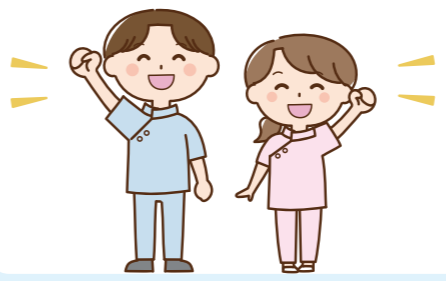
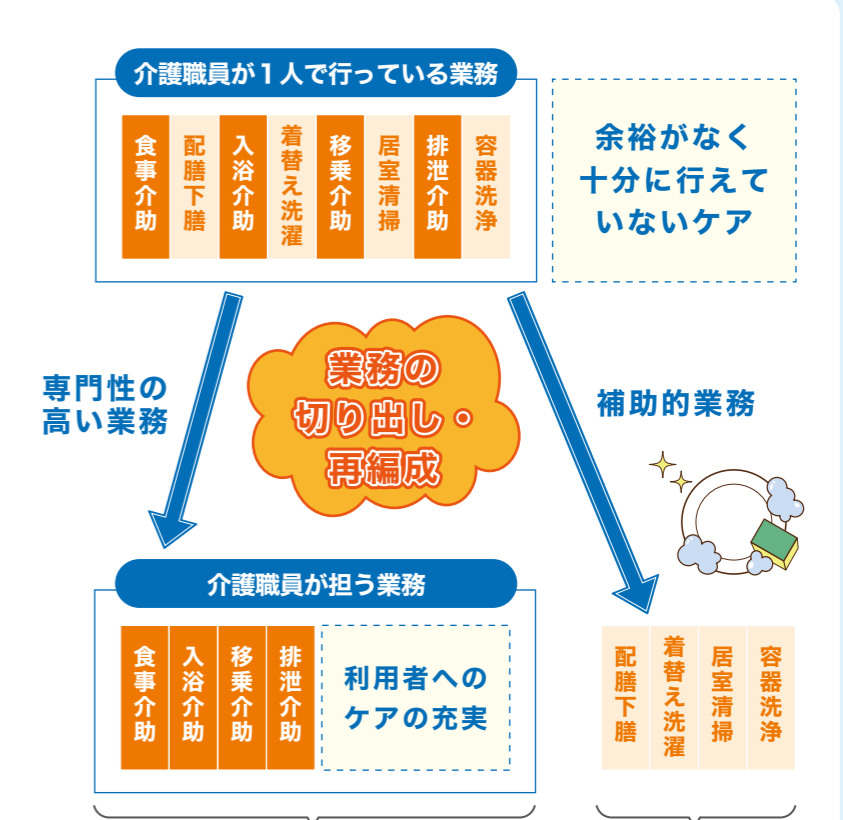
- ### 高知県福祉人材センターを利用すると・・・
- 事業所詳細情報を使って求人が無い時も施設をアピールできます!
 - 24時間求人票の申請ができます!
※掲載についてはセンター・バンク職員の承認後になります。
 - 求人票を一度入力すると次回からは「再利用申請」でラクラク申請が可能!



「介護助手」とは、通常行われている介護の業務を「身体介護」と「それ以外の補助的業務」に分けて再編成することで業務を細分化(業務の切り出し作業)し、介護職員が専門的な業務に専念できる環境を整備することで、業務の負担軽減や業務の効率化を図り、介護職員の定着と介護人材の確保、元気高齢者等の就労先の確保に繋げることを目的としている取組です。



高知県福祉人材センターでは、平成29年度から介護助手事業を始め、現在29事業所に導入いただきました。中でも、業務の切り出し作業は、業務の細分化によって現状の見える化ができ、ICTの導入やキャリアパスの構築などにも活かすると効果を実感いただけたほか、介護助手として新規参加者を雇用することで、福祉の仕事に対するネガティブイメージの払しょくや現職員の働きやすさにも繋がっています。次のページは、昨年度導入した事業所の事例を2例ご紹介いたします。取り組む上での着目点や工夫点を事業所内に活かしていただけると幸いです。



専門性の必要な本来業務に専念でき、サービスの質の向上が図れる!

中高年齢者や主婦、学生など多様な人材が働ける!(介護助手)

操作方法や詳細についての問い合わせは

高知県社会福祉協議会・高知県福祉人材センター
 〒780-8567 高知市朝倉戊375-1県立ふくし交流プラザ内1階
 窓口時間 平日(月-金)9:00~17:00
 TEL 088(844)3511 FAX 088(821)6765
 e-mail jinzai@pippikochi.or.jp

『介護助手』取り組み事例のご紹介



社会福祉法人厚敬会 特別養護老人ホーム トキワ苑

(土佐町、4事業所展開、創立34年)



介護課長 井手 正さん

導入のきっかけは？

以前から掃除や洗濯の業務に専従の職員を配置していましたが、配膳や下膳、シーツの交換などの環境整備はケアワーカーが行っていました。このような直接ご利用者に接することのない業務を更に整理し、ケアワーカーは本来の介護業務を、介護助手は介護に関連する業務を担当する体制を整備し効率的な運営を行いたい、という思いから導入事業に参加することとしました。

業務の切り出しの工夫ポイントは？

①職員間での導入目的の共有

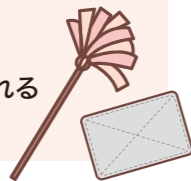
介護助手導入事業への理解を深めるため、リーダー会や職員会で全職員に向けて説明を行いました。また、介護助手が担当する業務の検討作業はリーダーやサブリーダーではなく、あえて一般職のケアワーカーに担当してもらいました。業務の切り出し作業を通じて役職者以外の職員にも事業の目的の理解が進み、ケアワーカーと介護助手の関係性を確立することができたように思います。

②業務の見える化

厚敬会では新しい人事制度を整備するために、それぞれの職種の業務内容を初級・中級・上級に区分して整理する作業を10年以上前に行っていました。職員の能力に応じて担当する業務内容を定めたこの分類はキャリアパスの根幹になるとともに、今回の業務の切り出し作業にも大変役立つことになりました。介護助手が担当する業務は、ケアワーカーの初級の業務を①基本業務(指導を受ければ経験がなくても行える業務)②上級業務(一定の経験が必要とする業務)の二段階に分けて明記することで、求職者とのマッチングが容易となり、職員の介護助手に対する理解も進むこととなりました。

～基本業務～

- ①食事に必要なエプロン、おしぼり等の準備をする
- ②テーブルの後片づけ、床の掃除等、食堂全体を清潔に清掃する
- ③脱衣場、浴室の後片付けをする
- ④車椅子の掃除、タイヤの空気を入れる
- ⑤日用品の整理整頓をする



介護助手の雇用状況は？

募集枠1名に対し8名が事前説明会に参加、障害のある方を1名採用しました。介護助手の業務は障害のある方でも介護現場で働ける可能性を感じました。

介護助手さんの声

去年までは特別支援学校に通っていましたが将来は生まれ育った嶺北で仕事がしたいと思い仕事を探していました。人と関わることが好きなので、この業務ができて楽しく、今後も人の役に立っていきたいと考えています。



成果と振り返り

業務を切り分けることで、これまで十分にできていなかった食事後の床の清掃やベッド周りの掃除、車いす等の汚れ掃除もできるようになりました。また、今年度に入り地元住民の面接申込が2件、採用に至りました。事業所として出来る取組を進めていくことで内部職員の満足感や認識が高まり、結果、好循環が生まれてきていることも成果です。

癒しのアイドル
ゴンタくん



社会福祉法人愛生福祉会 特別養護老人ホーム 豊寿園

(宿毛市、11事業所展開、創立30年)



副施設長 才市 伸さん
(当時)

導入のきっかけは？

きっかけは慢性的な人材不足です。高知県の中山間地域は、特に人口減が著しく、公募しても採用に繋がらないのが現状です。そのため、事業所として地域の実情に合わせて、どのように業務を作っていくのが重要でした。また、県内には優良事業所が多数ありますが、それでも繋がりにくい現状があることについて、介護職の人気の低さがあります。子ども達も県外へ流出しているため、どの分野も競争が激しくなる中、福祉分野へ来てくれる学生は一握りです。裾野を広げるこの取組は重要だと感じました。

業務の切り出しの工夫ポイントは？

①職員間の目的の共有

導入後のサポートや波及効果等も考えて、リーダークラスの職員に対しアンケート形式で業務の切り出しを行いました。導入する際の打ち合わせでは、不安や即戦力が欲しいとの声もありましたが、裾野を広げる為に、現況や今の職場をどのように組み替えていくのか考えることが重要だと伝えることで、徐々に理解してもらうことが出来ました。どのような人でも、興味を持ってもらえること自体ありがたいことであると認識しています。

②ネットワークを生かした広報活動

本来、人材確保は法人の自助努力です。しかし、この事業は人材確保に様々な団体関わってもらえる貴重な事業です。本会は、宿毛市の中心地から少し外れた地区にあるため、求人を出すだけでなく、地域のつながりも重要と感じていました。そこで、本会、宿毛市社会福祉協議会、幡多福祉人材バンク、高知県福祉人材センターが集まり、各々のネットワークを生かしてどのような広報活動ができるのかを検討しました。チラシを活用しつつ、役割分担してPRできたことは、これまでない活動であり、とてもありがたく感じています。



介護助手の雇用状況は？

今回は、10代2名、60代1名の計3名を雇用しました。

介護助手さんの声(10代、女性)

私には身近に介護職員がいて「仕事は大変だけれど喜びや楽しみもある」と教えてもらいました。介護助手の業務は、身体介護がないため自分でも出来ると思い、申し込みました。友達に話すと「そんな働き方があるんだね」と驚いていました。



成果と振り返り

今回、元気高齢者だけでなく学生もアルバイトとして雇用することができました。今後の少子高齢化に向けて、参加者を増やすためには『福祉の正しい情報を知ってもらう』ということが大切です。今、関わっている介護助手や職員を大切に、正しい情報を伝えていくこと、そしてその情報を人から人へ伝えていくことが重要だと考えています。